

# OMX のかしこい「おまかせ設定」運転

おまかせ設定 暖房（活動時間帯 20℃、夜間 18℃）、冷房（24 時間 27℃）のときの運転をご案内します。

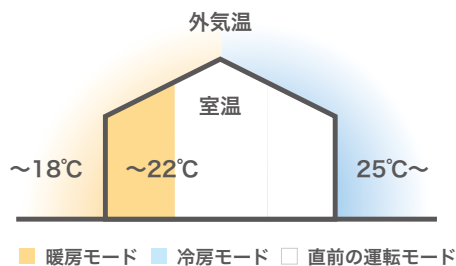
暖房の活動時間帯は 7 時～22 時、夜間は 22 時～翌 5 時で設定されています。

おまかせ設定は「プラスマイナス 1℃」の設定が可能です。その際は、以下の全ての温度が「プラスマイナス 1℃」します。

1

## 冷暖房モードを自動で判断します。

冷暖房どちらで待機するか、まずは外気温で判断します。外気温が 18℃以下は暖房、25℃以上は冷房で待機。次に、18℃を越えて 25℃未満は室温で判断します。室温が 22℃以下は暖房、22℃を越えて 25℃未満は直前の運転モードを引き継いで待機します。

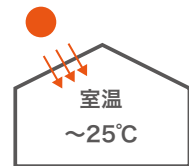


2

## 暖房に太陽熱を、冷房に夜間放射冷却利用をします。

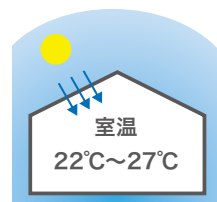
### 暖房の太陽熱利用

室温が 25℃になるまでは太陽熱を利用して暖房します。



### 冷房の放射冷却利用

室温が 27℃未満の夜間（約 19 時～翌 6 時）、室温よりも外気温が低くなると、外気を取込みはじめます。この時、外気取込みより放射冷却利用のほうが温度が低いと機器が判断したら放射冷却利用を開始。30 分毎に判断し続けます。この運転は、22℃になると停止します。



3

## 正午からお湯を沸かします。

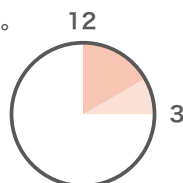
### 冬は暖かい時間に

昼頃になると、室温が上がり外気温度も上がります。だからその時間帯に沸き上げ運転をします。

### 夏は冷房の排熱を利用して

冷房時、室外機から捨てる「排熱」を利用して沸き上げ運転をします。

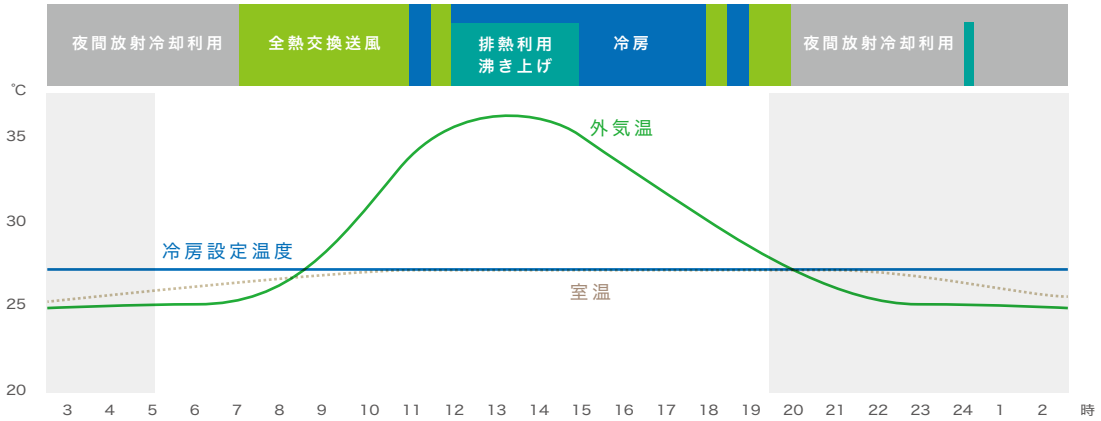
正午をメインに、不足分を夜中 0 時に沸き上げるのを基本としますが、学習機能により、お湯が不足すると判断した場合には、別の時間帯に沸かし始める場合もあります。



# 季節ごとの運転パターン

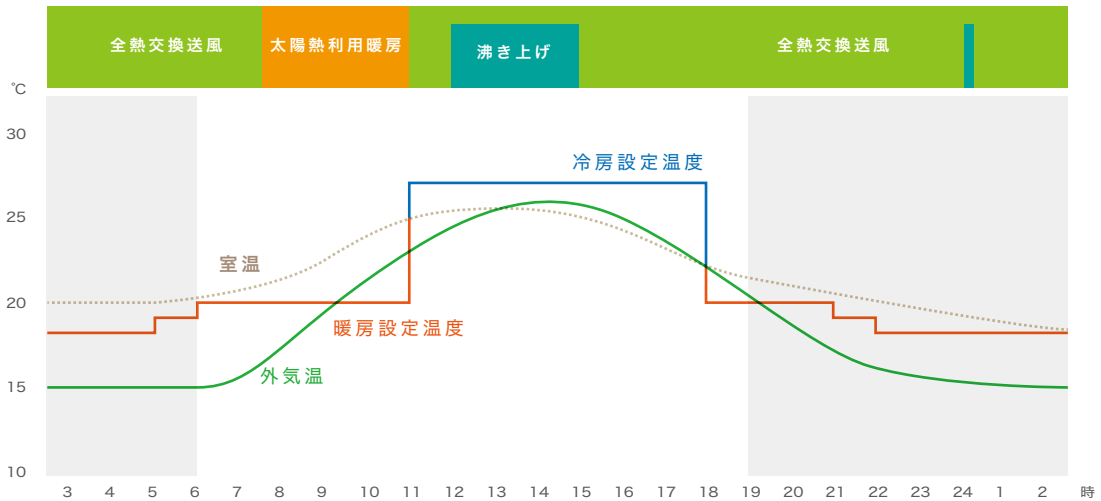
## 夏の運転

冷房設定温度 27°C、27°C未満の時間帯は全熱交換送風運転。  
正午を基本として排熱利用沸き上げ、夜間には放射冷却利用を行います。



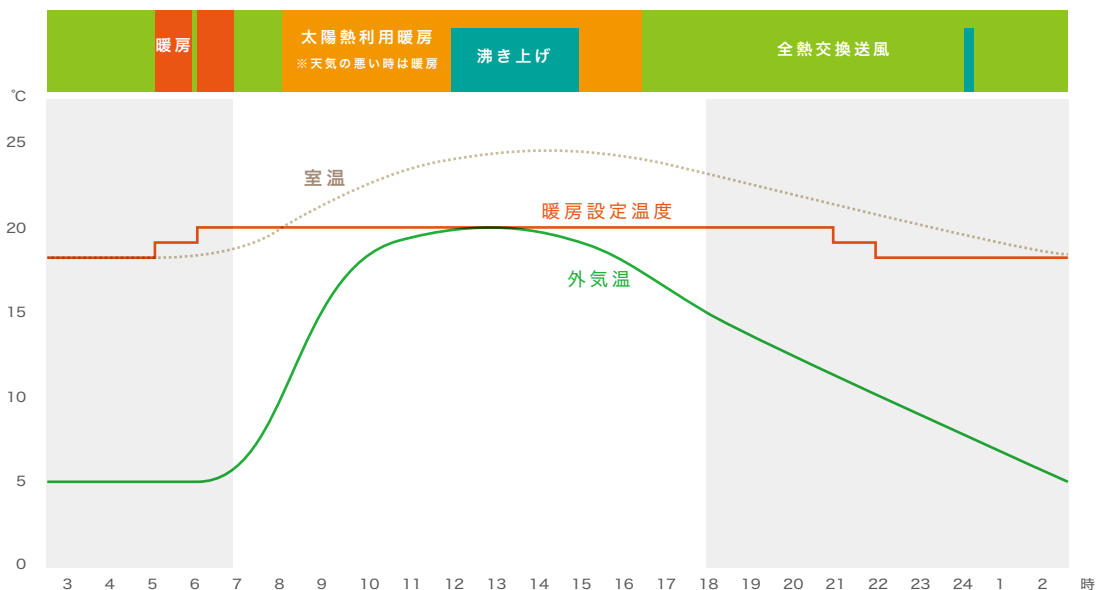
## 中間期の運転

晴れた日は太陽熱利用暖房を行います。25°C以上になると冷房モードで待機（冷房運転は室温が27°Cまでは行いません）。22°C以下になると暖房モードで待機します。



## 冬の運転

夜間22時～翌5時、暖房設定温度は18°Cでキープ。5時～7時に暖房設定温度を20°Cに上げて活動時間に備えます。晴れた日は太陽熱利用暖房を行います。



※運転パターンの一例です。建物プランや気象の条件により運転パターンは異なります。